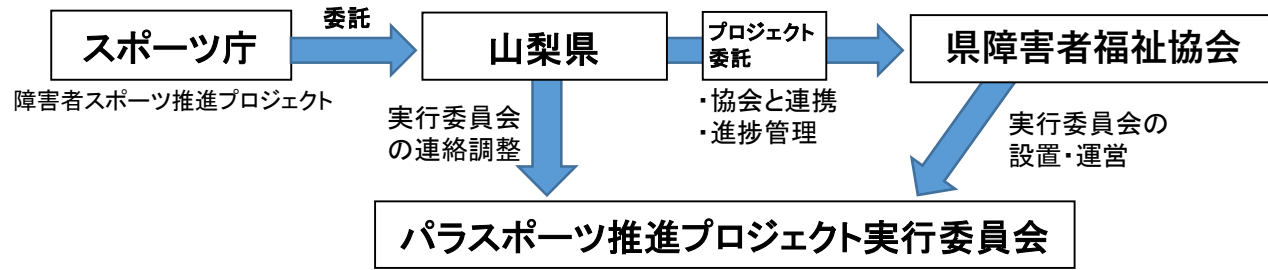


【資料 1】

パラスポーツ・コーディネーター配置事業  
関係団体との連携状況について

令和4年9月29日（木）  
パラスポーツ推進プロジェクト実行委員会  
パラスポーツ・コーディネーター

# パラスポーツ推進プロジェクトについて(パラスポーツ・コーディネーター配置事業)



○障害者スポーツの普及促進と関係者の連携強化を図るため、様々な分野からなる官民学が一体となった実行委員会を設置  
 ・県の障害者スポーツ施策の現状と課題を共有し、障害者スポーツの普及と関係者の連携強化を推進するための原動力。  
 ・地域における課題の分析及びその解決に向けた効果的な実践研究の方策を検討。

## パラスポーツ推進プロジェクトの内容

**目指す姿** (関係づくり)(人づくり)(拠点づくり)により、誰もが身近な場所でスポーツに参加可能な社会  
 →地域でスポーツに親しめる「機会を創出」するため、「関係づくり」「人づくり」「拠点づくり」によるプロジェクトを推進

### 関係づくり

- 関係団体との連携を中核的に担うコーディネーターの配置
  - ・県障害者福祉協会へパラスポーツコーディネーター2名を配置
- スポーツ団体、福祉、教育、企業等が行っている障害者スポーツ事業の情報把握、連携体制の構築
  - ・パラスポーツ推進プロジェクト実行委員会の設置・運営
- 各種相談に対応するための窓口設置
  - ・障害者本人や支援者、スポーツ団体等からの相談に対応する窓口を設置し、相談内容に応じてスポーツクラブ、競技団体への受け入れ調整や、初回参加時の同行など、障害者のスポーツ活動が円滑に行われるようコーディネートする。

連携し取り組む

### 人づくり

- 障害者スポーツの普及啓発を目的とした研修会及びフェスティバルの開催
  - ・研修会(パラアスリートや学識経験者による講演会等)の企画・運営
  - ・障害の有無に関わらず、誰もが参加できるパラスポーツフェスティバルの開催

### 拠点づくり

- プロジェクトの実践研究、実施事例(モデル)の収集
  - ・4圏域のスポーツクラブ等の関係団体と連携に向けた調整、実践
  - ・特別支援学校施設を活用したスポーツ交流教室の開催

## 実行委員会構成団体

**【山梨県】**  
 スポーツ振興課、障害福祉課、保健体育課  
 特別支教育・児童生徒支援課

**【福祉】**  
 山梨県障害者福祉協会  
 山梨県ボランティア・NPOセンター

**【障害者スポーツ団体】**  
 山梨県障害者スポーツ協会  
 山梨県障がい者スポーツ指導員協議会  
 山梨県ボッチャ協会

**【スポーツ団体】**  
 山梨県スポーツ協会  
 山梨県スポーツ推進委員協議会

**【企業】**  
 ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ

**【教育】**  
 山梨学院大学、特別支援学校体育連盟

## 関係づくり

スポーツ団体、福祉、教育、企業等が行っている障害者スポーツ事業の情報把握、連携体制の構築

- ①各市町村へのアンケート調査
- ②各市町村、社会福祉協議会への訪問
- ③各特別支援学校への訪問
- ④総合型地域スポーツクラブへのアンケート調査
- ⑤相談窓口の対応状況

## ①各市町村へのアンケート調査

### 1. 目的

各市町村における障害者スポーツ事業（障害のある方が参加可能なスポーツイベント、体験会等）の実施状況を把握する。

### 2. 調査期間

令和4年6月16日～6月30日

### 3. 調査対象

県内27市町村

### 4. 回収状況

回答数：27 回収率：100%

### 5. 調査内容

- ・各市町村の障害者スポーツ主管課（担当部署）について
- ・令和3年度の障害者スポーツ事業の実施状況について
- ・今年度の障害者スポーツ事業の実施予定について

# 各市町村へのアンケート調査の集計

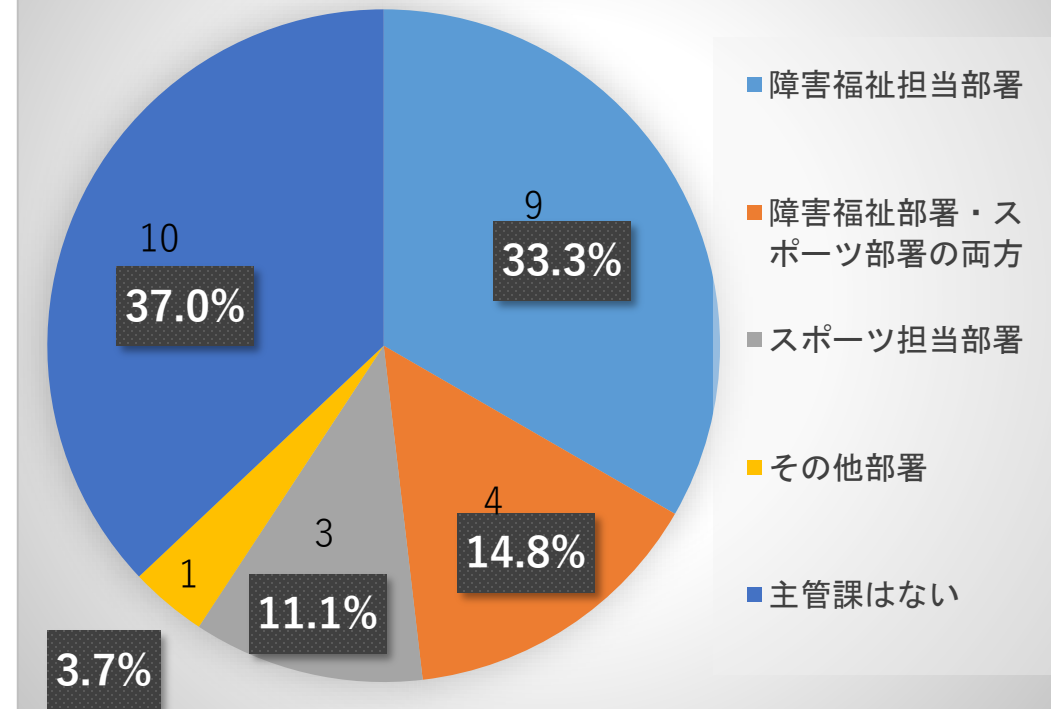
## 問1. 各市町村の障害者スポーツ主管課について

### 主管課がある市町村の多くで「障害福祉担当部署」が障害者スポーツを所管

- ・ 主管課が明確に定まっていない市町村では、地域の社会福祉協議会が障害者スポーツ事業の担い手となっている。
- ・ 「その他部署」と回答した1件についても、社会福祉協議会によって障害者スポーツ事業が所管されていた。

市町村レベルで、障害者のスポーツ活動を福祉分野でなく、スポーツ庁所管の“スポーツ”として（生涯スポーツ、競技スポーツの観点で）推進する認識は広まっていないことが伺える。

問1. 各市町村の障害者スポーツ主管課



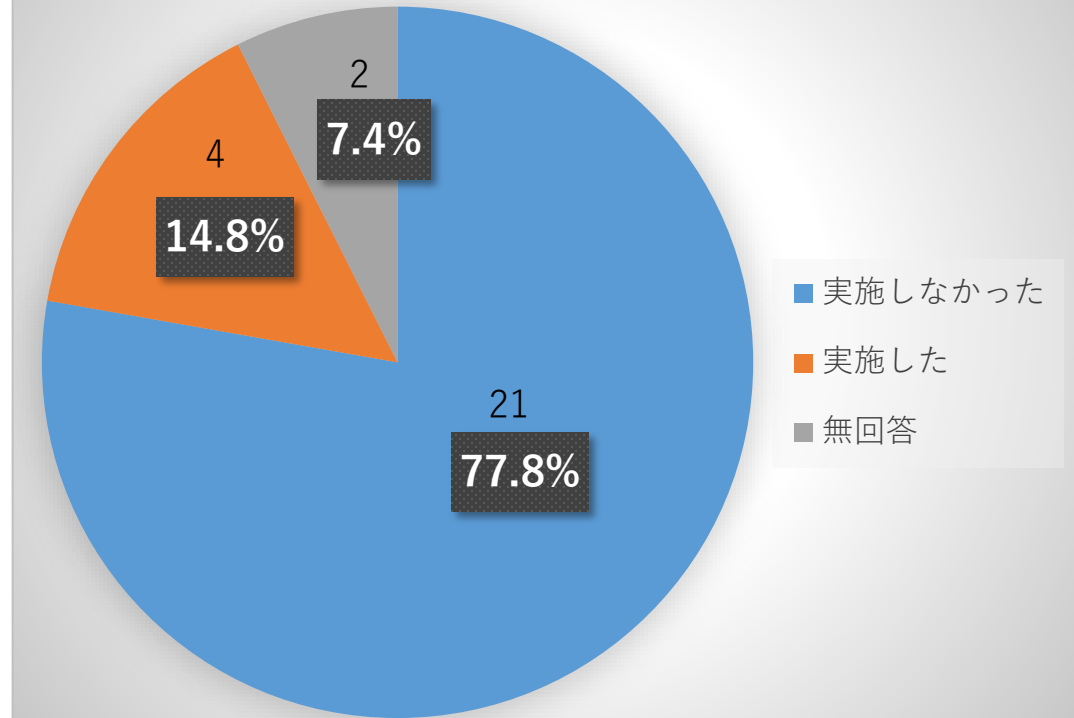
## 問2. R3年度の障害者スポーツ事業実施状況について

### コロナ禍の影響もあり、令和3年度は多くの市町村が障害者スポーツ事業を実施しなかった

- ・ 障害者のスポーツ事業（イベント・体験会等）を実施したのは4市町村であった。
- ・ 事業の内容は以下のとおり
  - 【外部委託により実施】  
福祉運動会、グラウンドゴルフ・ゲートボール大会  
グラウンドゴルフ教室、軽スポーツ、バスケット  
委託先：社会福祉協議会、スポーツ推進委員協議会、  
障害者の当事者団体
  - 【社会福祉協議会が主催】  
障害者スポーツ大会（各種リレー、輪投げ）

障害者スポーツに関する事業を実施していない自治体が大半を占め、障害者が居住地においてスポーツに参加する機会は少なかったことが伺えるが、今後はウィズコロナの視点で前向きに推進していく必要がある。

問2.R3年度の障害者スポーツ事業実施状況



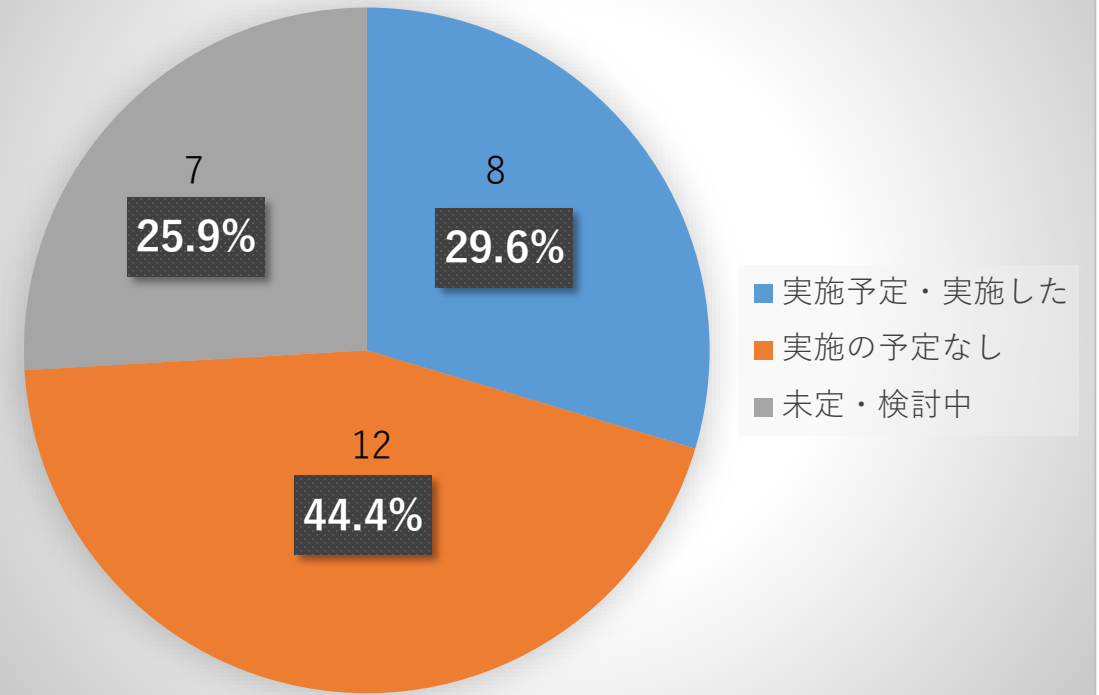
### 問3. R4年度の障害者スポーツ事業実施予定について

#### 令和3年度に比べ、今年度は障害者のスポーツ事業を実施する市町村が増加する見通し

- ・今年度は8つの市町村で、障害者が参加できるスポーツ事業（イベント・体験会等）を実施予定又は実施済みであり、人口が多い市町村の割合が高かった。
- ・「実施の予定なし」「未定・検討中」の理由として、新型コロナの影響や、障害者の人口が少ない等が挙げられた。

最も多い回答は「実施予定なし」で全体の4割以上であるが、障害者スポーツ事業に着手する市町村が8つあり、R3に比べ増加している。パラリンピックを契機とする注目の高まりが伺える。

問3.R4年度の障害者スポーツ事業実施予定



## ②各市町村、社会福祉協議会への訪問

### 1. 目的

パラスポーツ・コーディネーター配置事業の概要について各市町村へ説明・周知を行い、地域における障害者スポーツ事業での活用へ繋げることで、連携体制の構築を図る。

### 2. 期間及び対象

令和4年6月29日～8月16日

県内27市町村の障害者スポーツ主管課及び社会福祉協議会

### 3. ○説明（パラスポーツ・コーディネーター配置事業等の概要について）

- ・障がい者スポーツ指導員の派遣について
- ・スポーツ用具の無料貸し出しについて
- ・スポーツ交流教室について
- ・各種相談に対応するための窓口設置について

○各市町村へのアンケート結果を基に、障害者スポーツの課題等について聞き取り



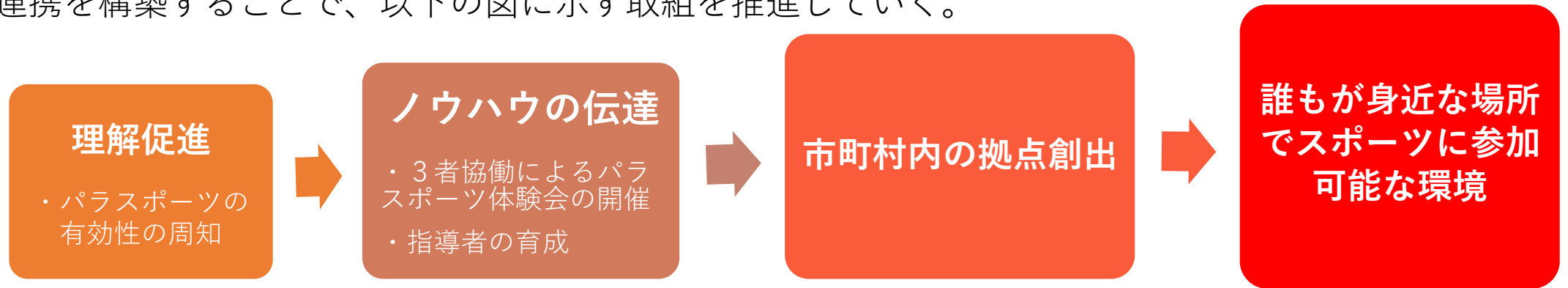
## 各市町村、社会福祉協議会への聞き取りから（主なもの）

	聞き取り内容	考察	課題
事業の実施主体	「市町村の社会福祉協議会と連携し、主に高齢者対象のスポーツ事業を実施している」（多くの市町村）	スポーツ部局実施の事業は健常者が対象、障害福祉部局実施の事業は高齢者が対象という一定の枠組みがある。	障害者も含むあらゆる者を対象としたスポーツ事業が実施されていない。
ニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>「希望している障害者がいない」</li> <li>「問い合わせがない」</li> </ul> （小規模の町村）	障害の種別等により、自ら問い合わせることが難しい場合がある。	潜在的なニーズの把握ができていない可能性がある。
体験会等の企画立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>「パラスポーツに関心はあったが、新型コロナウイルスや用具の問題で着手できなかった。」</li> <li>「用具の貸し出しや指導員の派遣等、コーディネーターが相談窓口となっているなら今後相談したい。」</li> </ul> （複数の市町村及び社会福祉協議会）	パラスポーツへの関心の高まりが見られ、用具の貸し出しやノウハウ等、相談窓口を活用できれば、障害者スポーツ事業を実施できる可能性がある。	コーディネーターが中心となり、用具の貸し出しや、障がい者スポーツ指導員の派遣等、活用できる事業の理解を更に広げていく必要がある。

# 各市町村、社会福祉協議会への聞き取りから（今後の取組）

- 誰もが楽しめるスポーツ活動のツールとしてパラスポーツを有効活用することにより、身近な場所でスポーツに参加可能な環境を推進する

プロセス：パラスポーツへの理解促進から指導者の育成、拠点の創出等に向けた段階的な取組として、コーディネーターが中核となり、県障害者スポーツ協会、各市町村及び社会福祉協議会の連携を構築することで、以下の図に示す取組を推進していく。



## 今年度の取組

- 理解促進

既存の高齢者のスポーツ事業等で、パラスポーツの活用が可能であることを、コーディネーターを中心に、各市町村の担当部局へ働きかけ、理解促進を図っていく。

- ノウハウの伝達

- ・現在は「高齢者向け」「健常者向け」等、対象が限定されたスポーツ事業が、今後はボッチャなどのパラスポーツを取り入れることで、誰もが参加できる機会となり、障害者が参加できるようになる。
- ・指導者はパラスポーツの指導実績を積み、指導力向上が図られる。

### ③各特別支援学校への訪問

#### 1. 目的

身近な地域におけるパラスポーツの拠点として、まず特別支援学校施設を活用したスポーツ交流教室を開催し、健常者でもボッチャが楽しめる等、パラスポーツ普及の拠点となるよう各特別支援学校との合意形成を図る。

#### 2. 期間及び対象

令和4年6月13日～9月16日

県内4圏域のモデル校が対象（かえで支援、わかば支援、桃花台学園、ふじざくら支援）

#### 3. 訪問の概要（学校からの声）

- ・各モデル校において、目的についてご理解をいただいた。
- ・しかし、地域住民等を交流対象とした在校生とのスポーツ交流教室開催については、新型コロナウイルス感染の観点から不安があり、了解が得られない学校が大半であった。

#### 4. 対応

わかば支援：交流対象を隣接入所施設の入所者のみとし、在校生との交流教室を実施した。

桃花台学園：在校生は参加せず、地域住民のみを対象に障害がある方との交流教室を実施した。

#### 5. 今後の予定

- ・新型コロナウイルスの感染防止対策を講じ、残りのモデル校2校と連携して、交流教室を実施する。
- ・卒業生や地域の障害福祉サービス事業所等、参加対象を拡充して交流教室を実施する。
- ・交流教室の参加者へアンケートを行い、実施効果の検証を行う。
- ・健常者もパラスポーツが楽しめるよう、学校開放を目指し、引き続き学校関係者との調整を行っていく。

7月9日（土）わかば支援学校

種 目：ボッチャ・フライングディスク

参加者：15人（在校生と県立育精福祉センター入所者）



9月3日（土）桃花台学園

種 目：ボッチャ

参加者：13人（小学生から70代）



## ④総合型地域スポーツクラブへのアンケート調査

### 1. 目的

地域スポーツの場における障害者を対象としたスポーツ提供体制を把握し、調査結果から導き出された現状や課題等を今後の取組への反映させる。

### 2. 調査期間

令和4年8月19日～9月9日

### 3. 調査対象

県内に設置されている総合型地域スポーツクラブ全32団体

### 4. 回収状況

回答数：12 回収率：37.5%

### 5. 調査内容

- ・クラブ活動への障害者の参加状況について
- ・障害者が活動に参加する際の配慮の有無について
- ・障害者を受け入れできなかった又は、受け入れ予定がない理由について
- ・障害者も参加可能なスポーツ体験会等の企画に対する希望の有無について



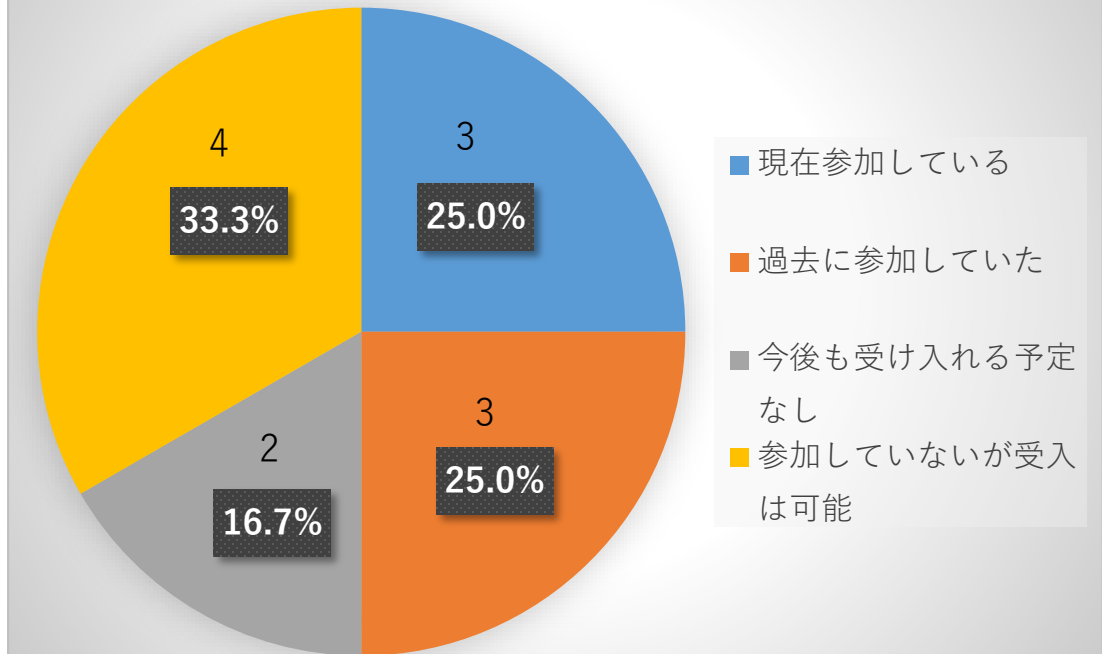
# 総合型地域スポーツクラブへのアンケート調査の集計

## 問1. クラブ活動への障害者の参加状況について

### 回答があったクラブのうち、25%に障害者が参加

- ・ 障害者の参加状況は、「現在参加している」クラブが3つであった。
- ・ 回答があったクラブのうち、「現在参加している」、「過去に参加していた」、「参加していないが受入は可能」のクラブを合計すると10となり、全体の8割に達することから、障害者の参加自体は可能であるクラブが多数となる。

問1. クラブ活動への障害者の参加状況



## 問2. 障害者が活動に参加する際の配慮の有無について

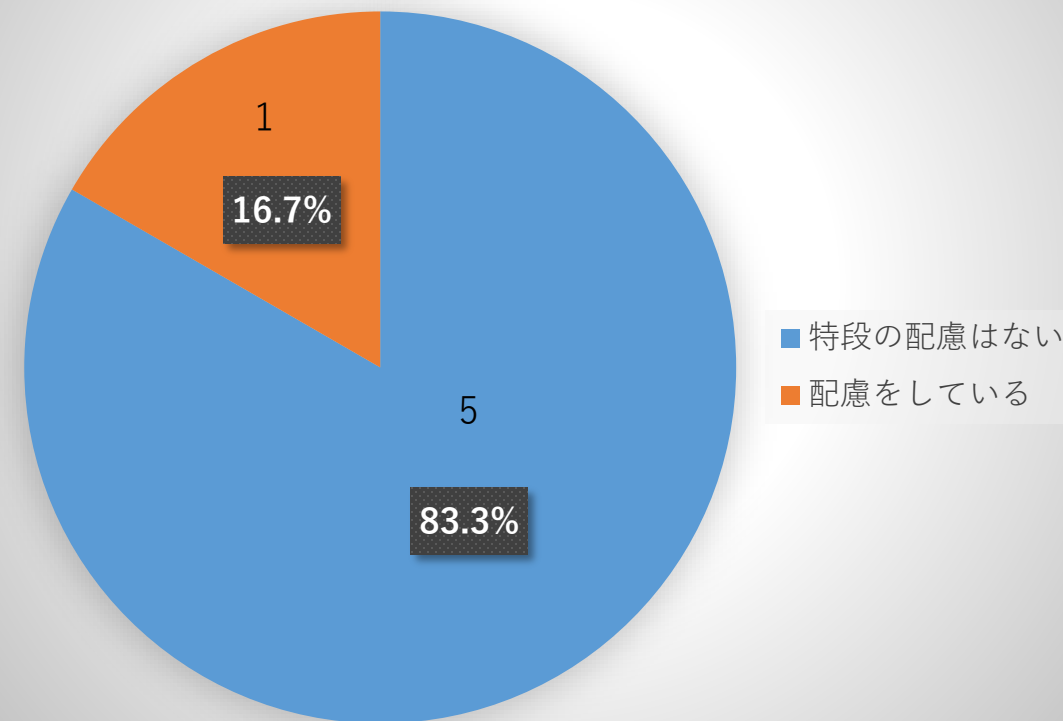
### 特段の配慮はせずに、一般のプログラムに参加できる 障害者が参加する傾向

- ・ 障害者が「現在参加している」「過去に参加していた」6クラブのうち、「障害者が活動に参加する際の特段の配慮※をしていない」が5クラブであった。

#### ※特段の配慮

- ・ 障害者を対象とするプログラムの用意
- ・ スタッフの個別サポート体制の提供 等

### 問2. 障害者が活動に参加する際の配慮の有無について

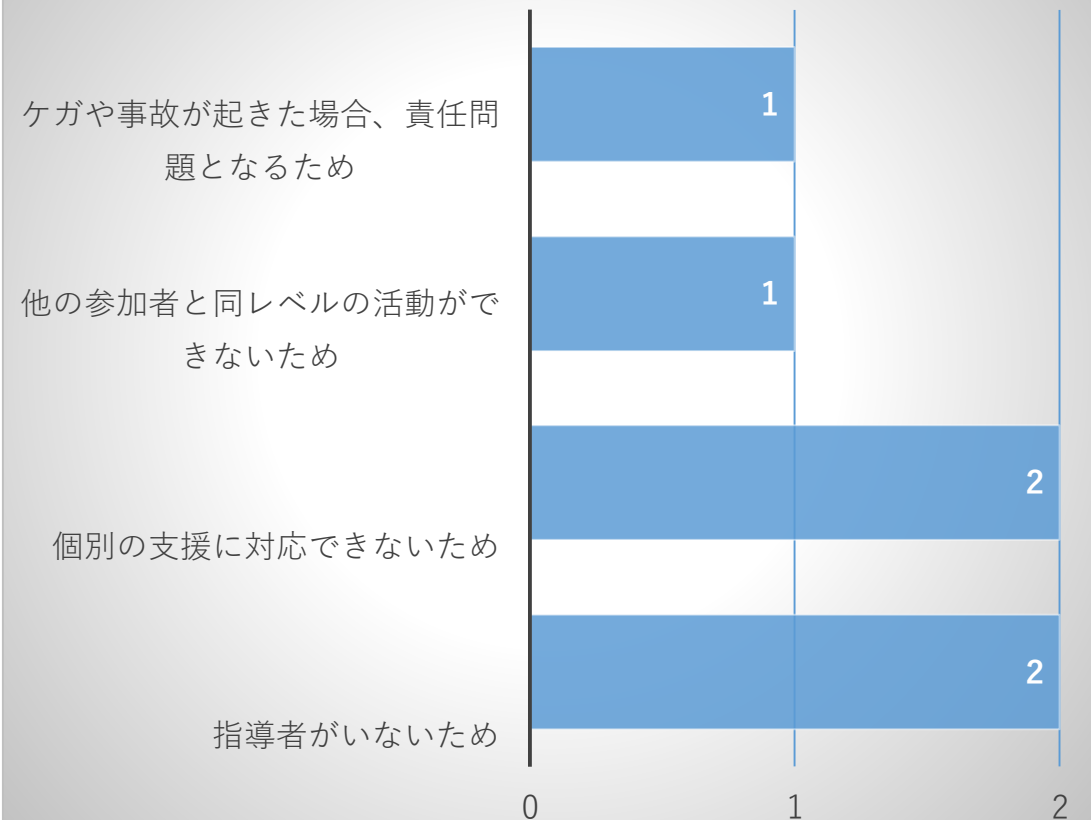


### 問3. 受け入れる予定がない理由について

#### 受け入れへの課題は指導者の確保

・ 障害者を「今後も受け入れる予定はない」クラブにおける理由については、「個別の支援に対応できないため」「指導者がいないため」が多かった。

### 問3. 受け入れる予定がない理由



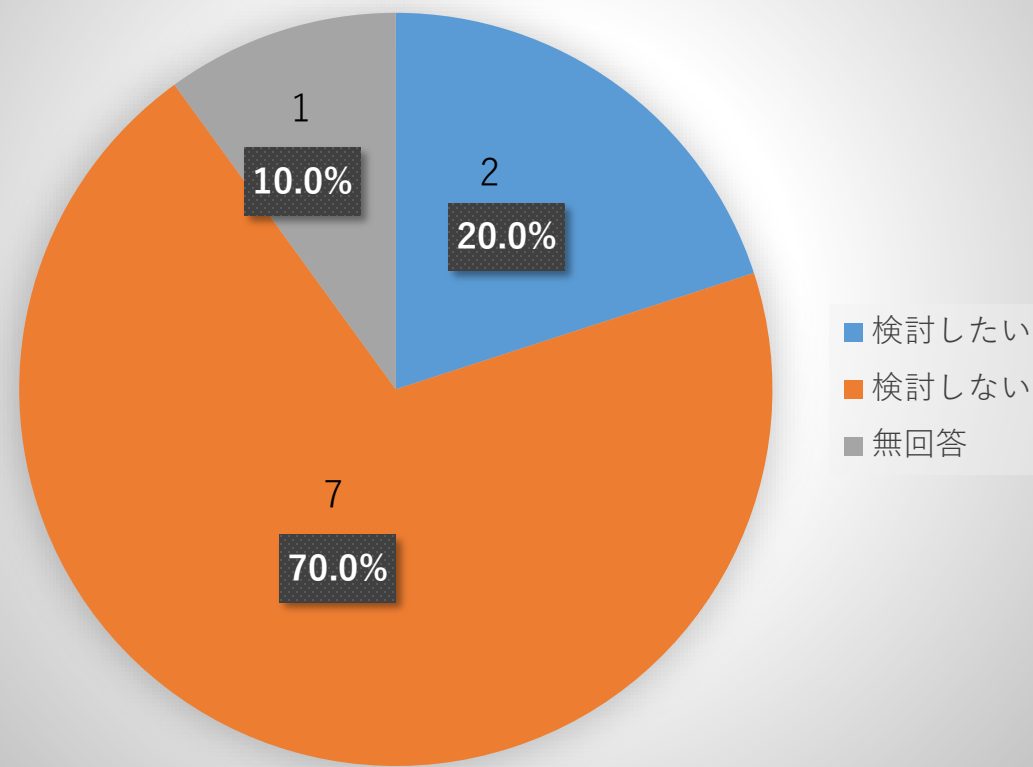


## 問4. 障害者も参加可能なスポーツ体験会等の企画について

### 障害者も参加可能なスポーツ体験会等の企画に前向きなクラブは少ない

- ・ 障害者が「現在参加している」「過去に参加していた」「参加していないが受入は可能」である10クラブのうち、パラスポーツコーディネーターが連携し、指導員の派遣やノウハウの伝達等のサポートが受けられる場合、障害者が参加可能なスポーツ体験会の企画について「検討したい」と回答したのは2クラブであった。

### 問4. 障害者も参加可能なスポーツ体験会等の企画について



## ⑤相談窓口の対応状況

○相談件数 7件 (R4. 9月29日現在)

- (a) 地域の子どもに対し、パラスポーツを通じて障害に対する理解を促したい (障害福祉施設から)
- (b) 県の障害者スポーツ推進の取組に協力したい (車椅子テニス選手の保護者から)
- (c) フライングディスクを題材とした講座を企画したい (生涯学習センターから)
- (d) 地域の運動会 (11月) の種目に、ボッチャを取り入れたい (市町村社会福祉協議会から)
- (e) 自分の子どもに、水泳の指導を受けさせたい (特別支援学校在籍生徒の保護者から)
- (f) 障害児を受け入れ可能なスポーツ団体を紹介してほしい (放課後等デイサービスから)
- (g) 障害者が気兼ねなく運動できる場所や、運動の例を紹介してほしい (障害福祉施設から)

	対応状況	連携先
(a)	・グランドソフトボール (盲人野球) の選手を招いた体験会開催を支援した。 ・様々な種目のパラスポーツ体験会開催を支援した。	山梨県グランドソフトボール部 特別支援学校
(b)	12月に車椅子テニス体験会開催を企画し、指導者として車椅子テニス選手 (相談者) に参加していただく予定。	山梨県障がい者スポーツ指導員協議会
(c)	山梨県障害者フライングディスク協会を紹介し、講座の講師として派遣することとなった。	山梨県障害者フライングディスク協会
(d)	ボッチャの会(競技団体)を紹介し、運動会当日の審判として、同会を派遣することとなった。	ボッチャの会
(e)	障害児に水泳指導を行っている障害福祉施設を紹介し、橋渡しをした。	障害福祉施設
(f)	県内で活動しているパラスポーツ競技団体について情報提供をした。	県内各パラスポーツ競技団体
(g)	特別支援学校の体育館で、障害福祉施設の利用者を対象にパラスポーツ体験を企画予定。	特別支援学校

○対応事例 (a) パラスポーツを通じた障害に対する理解向上の取組 (地域の幼児・児童対象)

7 / 2 (土) グランドソフトボール体験会



7月 2日 (土) 会場：盲学校  
グランドソフトボール (盲人野球) の選手を招いた体験会  
参加者：池田地区在住幼児及び小学校低学年生約30人  
内 容・目隠での歩行やランニング、鈴入りボールのキャッチボール  
・山梨県グランドソフトボール部によるデモンストレーション  
(走る・ボールを取る・投げる)  
・講話 (視覚障害者に出会ったらどうしてもらいたい)

9 / 17 (土) パラスポーツ体験会



9月17日 (土) 会場：盲学校  
パラスポーツの体験会  
参加者：池田地区在住幼児及び小学校低学年生約30人  
内 容：フライングディスク、ブラインドサッカー、ゴールボール、  
ポッチャの体験